

令和6年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

令和7年度 取組目標とその方策

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育活動 (教務)	新クラス設置における円滑な業務運営	R7年度よりGSコース2年次に理系クラスが、特別進学コース3年次に私立文系クラスが設置される。新たなクラスの設置にともない、新カリキュラムが円滑に実施できるよう、今後の2年間は最善の注意を払いながら教育活動を行っていく必要がある。	教科主任会議や学年主任との連携を通して、適宜検討・修正していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教科指導 (教務)	教務部の組織の充実	今年度、負担の分散を図ることで改善された点がある一方で、業務に不慣れな部員による遅滞や不備が目立った。引継ぎ等を含め、担当者が変わっても滞りなく運営できるような組織を作っていくことが求められる。教務部の業務内容は多岐にわたるが、当然ながら内容によって負担量は異なる。負担が分散するように努めているが、今後はさらに負担が分担するよう組織の充実を図る必要がある。	組織図作成段階において充実を図りながら、年度途中でも柔軟に対応できるよう適宜見直しを検討する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
学校生活への配慮 (生徒指導)	①挨拶の励行	学校生活の基本である挨拶をきちんと行うことで基本的生活習慣の礎としたい。そのために我々教員が挨拶をしっかり行い生徒の手本となる必要がある。また、生徒会やマナーアップ委員会等のあいさつ運動も巻き込み自然と挨拶する文化醸成の機運を高めていく。	年間を通して実施していく。
	②端正な服装頭髪の徹底	コースや学年間で温度差がなく、同じスタンスでの指導が出来る雰囲気作りと教職員会議等で状況の共有を行っていく。	新入生ガイダンス年間を通して実施していく。
	③いじめの根絶	いじめ防止対策室・教育相談部・保健室・カウンセラーとの連携を図り、いじめの要因の早期発見・早期対応を行い、大きな問題に発展しないように努める。SNS使用のルールづくりを促すと共に、情報モラル教育を要所要所で行っていく。	新入生ガイダンス年間行事予定表に準じて実施する。
	④社会のルールやマナーの遵守	登下校における問題点を週報や打合せで随時発信し、担当がHR等での継続的な指導を行うことが出来る環境づくりに努める。ルールやマナーを守り安全に登下校できるようにし、保護者に対しても送迎の自粛を促していく。 自転車通学者の登下校時における自転車乗車時のヘルメット着用の義務化は2年目に入る。我々の目の届かない場所でも正しくヘルメットの着用ができるよう指導を行っていく。引き続き、保険の加入を必須とする共に、自転車安全点検及び通学安全指導会を実施する。 学校内外におけるあらゆる場面での立ち振る舞いについて、他者の立場になって考え行動できるよう促す。	教育講座 自転車安全点検 年間行事予定表に準じて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
生徒会・部活動 (生徒指導)	ボランティア活動、常任委員会の活性化	ボランティア活動は月に1回以上のペースで主催できている。 参加者は10～30名程度で確実性が高い。 常任委員会は年間を通じて定期的な活動ができていない。 生徒会主催によるボランティア活動の計画 土浦市、土浦市教育委員会、土浦市社会福祉協議会からの依頼によるボランティア活動参加 石岡市観光協会からの依頼によるボランティア活動への参加 他校とのボランティア活動の計画 学園三校生徒会の合同研修 常任委員会の活性化	通年で実施 とくに常任委員会は学期に1回以上の開催を計画する 活動の記録を残す

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
進路指導	①日本大学学校推薦型選抜への適切な対応	日本大学との良好な信頼関係の維持に努めながら、入試に係る情報は、通知され次第速やかに学年会や教職員会議で周知し、教員間の共通認識を図る。基礎学力到達度テスト対策室やコース・学年と緊密に連携して、コース・学年間での温度差のない指導に努める。調査書作成等の事務作業にあたっては、教員の負担軽減を図りながら、迅速かつ正確な作業に努める。家庭との意思疎通を十分に図りながら、生徒・保護者にとって満足度の高い進路選択となるよう尽力する。通信制課程在籍生徒の増加を鑑み、よりいっそう緊密な連携を図る。	日本大学からの情報はその都度伝達していく。 教職員へは、学年会・教職員会議で情報を伝える。 保護者・生徒へは、懇談会・面談を通じて詳細に伝えていく。
	②国公立大学・難関私立大学への合格者数アップ	各大学の入試等の情報を積極的に収集し、国公立大学入試対策室およびコース・学年への提供に努める。特に、地元国公立大学とは連携を密にし、オープンキャンパスや入試説明会、研究室体験等への、生徒・教員の積極的な参加を促す。学校推薦型選抜や総合型選抜のなおいっそうの拡大を視野に入れ、早期より推薦入試対策を実施する。関連して、高大連携プログラムのあり方を検討し、積極的に活用する。また、大学側に働きかけ、難関大学の推薦指定校枠の拡大を図る。総合進学コースの一般入試受験者への進路指導・教科指導を強化する。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	③キャリア教育の充実	生徒の進路実現に資する講演会や講座を、適切な時期に開催するとともに、生徒の実状やコース・学年の意向を再確認しながら、必要に応じて行事の内容や開催時期の見直しを図る。また、生徒の知的好奇心や関心を刺激するために、職業や学問、大学に係る体験会や講演会の情報を進路指導部情報サイト等を通して発信し、積極的な参加を促す。高大連携が盛んになる現状において、日本大学を始めとした大学との連携のあり方を積極的に検討する。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	④調査書・進路統計・各種報告書の適切な処理	調査書や推薦書の作成にあたっては、日程や手続きの手順を精査し、作業の効率化と教員の負担軽減を図りながら、正確・確実・迅速な作業に努める。そのための一方策として、過去の推薦書や調査書、志望理由書の文例等を参考資料として共有することで、各種書類の質的向上と作業の効率化を図る。進路統計や各種報告書、合格体験記等を作成し、必要かつ有効なデータを適切な時期に提供する。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
体育施設	教職員・生徒の安全管理及び体育館・体育施設の管理の徹底	体育館・グラウンド・かすみがうら桜グラウンド、右萩桜グラウンドについては、事務局と連絡を取り、老朽化で危険な箇所を確認して直ちに補修を行う。また、老朽化だけではなく、ボールがぶつかったり、生徒がぶつかったりして、破損するところも同様である。しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行う。常に安全管理ができるように年間を通して見回る。右萩桜グラウンドは、芝生が剥げている箇所か数箇所あり、コースも砂量の違いのせいか、全てが均等になっていない。芝がはがれると足をとられ怪我をしてしまう可能性があり、砂量が異なると滑ってしまう可能性もあるため、季節もみながら年間を通して整備できるように点検する。	事務局担当者と連携をして、年間通して施設を見回り確認管理をする。危険なところが見つかれば、直ちに事務局担当者に連絡して修理をお願いする。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
保健衛生	生徒及び教職員の健康保持と健康管理能力の増進	①生徒、教職員ともに健康診断や検診等で自己の健康状態を把握し、健康管理できる環境が整っている。 ②生徒の健康課題や発達課題について、カウンセリングなど組織的な支援が行われており、教職員会議等を通して全教員が共通理解している。 ③年間計画に基づいて、生徒教職員の健康診断や検診を実施し、その結果により専門医への受診を保健室から勧めている。 ④教育相談部や保健室で得られた生徒情報を学校全体で共有し、生徒対応に活かす。 ⑤教職員のストレスチェックやカウンセリングを行い、心的負担の軽減を図る。 ⑥感染症について、学校全体で情報を共有し、さらに対策予防を強化していく。	年間計画を通して実施。
	環境の保健安全の確保	衛生委員と産業医を中心に定期的に衛生委員会を実施し、学校の安全・安心のために環境整備や感染症対策が進められている。 ①衛生委員会において問題点を話し合い、学校の安全・安心のために施設・設備の改良改善を重ねていく。 ②生徒の心身の発達を促す環境づくりに配慮する	年間を通して実施していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育相談	生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する。	①新入生に対する教育相談ガイダンスを実施し、新生活の円滑なスタートを援助する。 なお、教育相談ガイダンスの内容は以下の通り。 前半) 生徒ラウンジにて構成的グループエンカウンター(50分) 後半) 教室にて教育相談室の利用案内等(50分) ※令和6年度まではスポーツクラスに対してのみ、前半に「カラーネットワーク」を実施していたが、令和7年度は前半に「構成的グループエンカウンター」をスポーツクラスに対しても実施する予定。 ②総進2年・特進2年に対して新クラスでの円滑な人間関係の構築のため、教育相談部からいくつかのエクササイズを提示し、担任の先生に1つ選んでもらいグループエンカウンターを実施してもらう。 ③「学校不適応調査」(年6回)を実施する。 ④「高校生活に関する調査」(年3回)に教育相談に関する項目を設け、調査する。 ⑤カウンセリングを随時実施する。 ⑥保護者会資料に教育相談の内容を提示したり、「スクールカウンセラーだよ」を年6回本校ホームページにアップするなど、本校の教育相談体制を保護者に周知徹底し、連携を図る。 ⑦必要に応じて、特別支援教育としての個別指導計画を立案する。 ⑧スクールカウンセラーと連携し、担任の不適応生徒への対応を支援する。 ⑨教育相談部会を定期的に開催し、不適応生徒情報の共有を図る。 ⑩スクールカウンセラーの来校日を毎日とし、上記の支援体制を強化する。	①4月に実施。 ②4月に実施。 ③5・7・9・11・1・3月に実施。 ④5・10・1月に実施。 ⑤随時実施。 ⑥5・11・3月及び随時実施。 ⑦必要に応じて随時実施。 ⑧必要に応じて随時実施。 ⑨基本的には毎週月曜日・木曜日だが、必要に応じて随時実施。 ⑩継続して実施。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
いじめ防止対策	いじめの未然防止	①生徒集会の機会を用い、全校生徒に対していじめ防止の講話を行う。 ②「いじめの根絶」という全校共通の生活目標を4週に1度掲げ、担任からの講話を行う。 ③「ネットモラル勉強会」を入学直後の1年生対象に実施し、保護者にも内容を共有することで理解を求める。 ④新クラスとなる1・2年生に対して教育相談部と連携した構成的グループエンカウンターを実施し、望ましい人間関係作りを支援する。 ⑤夏休み明けに「いじめ防止対策強化月間」を設け、学年の実情に応じたいじめ防止の取り組みを学年主体で実施する。	①各学期一度 ②4週に一度 ③4月 ④4月 ⑤9月
	いじめの早期発見	①全教員が「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を常時携行し活用する。 ②生徒対象としてアンケート調査を年3回実施するほか、生徒には2者面談時に、保護者には3者面談時に聴き取り調査を行う。 ③教育相談部と連携して相談受け入れ体制を整える。	①随時 ②5月、10月、1月 ③随時
	いじめへの適切な対応	①把握した事案に対しては、いじめ防止対策室が組織として調査・認定・対応策検討を行い、担任・顧問等を支援することで特定教員による抱え込みを防ぐ。 ②被害生徒の支援を最優先しつつ、加害生徒の支援も行う。 ③関係保護者と情報を共有し、家庭における支援・指導を要請する。 ④重大事態が発生した場合は県に報告し、外部有識者の協力も得て対応に当たる。また、犯罪行為の場合は警察とも連携する。	①②③④随時
	いじめの再発防止	①事案に応じた再発防止策を検討し、その実行を確認する。 ②発生した事案を全教員が共有し、同種の事案の発生を防止する活動に繋げる。 ③いじめ解消については、「3ヶ月止んでいること」「被害生徒の心身の苦痛がないこと」を基準として判断する。	①②③随時
	教職員の共通理解	いじめ問題に対する教員の意識を向上させ共通理解を深めることを目的として、定期的に問題提起や情報提供を行う。	毎月一度

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
図書	タイムリーな展示コーナーづくりを進める。わかりやすいサイン（分類表示）をしている。	十進分類表による表示のみならず、できるだけ目でわかる案内図や表示を作成する。 有名な作家の作品のみならず、社会情勢や時事問題、話題・流行なども意識して、生徒の視野を広げ教養を高める機会となるような展示を進める。 図書委員会の活動を活性化し、ポスターやポップなども利用し、楽しく親しみやすい雰囲気をつくっていく。	年度当初より取り組む
	新書の充実にも努める。	探究学習や小論文入試などに利用される資料として、進路決定後の課題学習用としても、さらに専門分野の導入のための資料としても新書を充実させたい。 教員の利用頻度も比較的高いので、分野ごとに頻出テーマをリサーチしたり、生徒の希望も確認しながらそろえていく。 図書委員会の広報誌を利用して、新着資料を各クラスに紹介していきたい。	年度当初より取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
広報 (情報入試)	本校を周知する機会を増やし、受験生、入学者数の確保	令和7年度における単願推薦試験の受験生増加に向けた取り組みとして、まず加点制度の充実を図る。加点対象となる部活動の幅を広げることで、より多くの受験生が評価を受けられるようにし、単願推薦の選択を後押しする。また、加点基準を明確にし、積極的な周知を行うことで、受験生が自身の実績を活かせる環境を整える。なお、加点制度の拡充については、高校無償化政策の動向を注視しながら、適正な形での拡充を進める。 併願受験生に対しては、個別面談を積極的に実施し、高校と受験生が直接相談できる機会を増やす。併願受験における優遇制度の周知を進め、本校への関心を高めるとともに、必要に応じて単願推薦の選択肢を提示し、志願者の増加につなげる。 国内では、既存の学習塾への訪問を継続するとともに、新たな塾にも定期的に訪問を行い、学校の特徴や入試制度の説明を強化する。これにより、より多くの受験生や保護者に本校の魅力を伝え、志願者の拡大を目指す。 海外入試については、現行の入試制度を精査し、新たな入試形態を導入することで、海外からの受験生の増加を図る。受験の利便性を向上させるとともに、現地での説明会開催やオンライン相談の充実を進め、海外在住の受験生が受験しやすい環境を整える。 これらの施策を通じて、単願推薦試験の受験生増加を実現し、併願受験生に対するフォローを強化することで、本校の志願者数全体の向上を目指す。	春～初夏（3月～6月）は、早期アプローチと海外展開を進める。3月・4月に学校公開イベントを開催し、中学2年生や受験生に向けて本校のコースや学びの特色を紹介する。5月には国内での学校公開に加え、海外入試に向けた現地訪問を実施し、日本人学校や学習塾で広報活動を行う。6月には文化祭内に入試相談ブースを設置し、中学生や保護者の質問に対応する。 夏（7月～9月）は、体験型イベントの充実と受験準備の強化を進める。7月には学校見学会を実施し、在校生が各コースの魅力を紹介する。8月には部活動体験会を開催し、受験生が本校の部活動環境を体感できる機会を提供する。9月には秋の入試説明会を早期に実施し、受験生や保護者の関心を高める。 秋～冬（10月～1月）は、個別対応の強化と受験本番に向けた準備を進める。10月から11月にかけて個別面談を実施し、受験方法について丁寧に案内する。12月には出願を開始し、1月に入学試験を実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (教学)	①いじめ根絶	いじめ防止対策室を中心に、講話や勉強会、学級での指導を重ね、SNS利用に対する指導は、家庭とも連携して生徒の更なる意識向上と精神的成長を促す。	年間を通して計画的に取り組む
	②国公立大学合格者数の向上	国公立大学対策室を中心に、指導法・形態の改良を重ね、新大学入試制度の改革動向を確認しながら、東京大学・筑波大学・茨城大学の合格者数の向上をめざす。	年間を通して計画的に取り組む
	③基礎学力到達度試験対策の充実	基礎学力到達度試験対策室を中心に、付属推薦制度利用による日本大学合格者数の更なる向上を目指し、学園全体の目標達成に寄与していく。	年間を通して計画的に取り組む
	④新学習指導要領・大学入試改革への対応	思考力・表現力重視の流れの中での、入試問題研究を進め、探究活動の充実やそのためのポートフォリオの充実、英語4技能評価への対応など、改革に対応すべく研究を重ねていく。	年間を通して計画的に取り組む
	⑤ICT委員会の活動推進	全教室に黒板投影型プロジェクターを配備したことで、ICT教育の活動内容を広げると同時に、教員への研修、モラル・マナー教育も進めていく。	年間を通して計画的に取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (事務)	①予算編成(配分)方法の検証	教職員が一丸となり、各教務分掌の創意工夫をもって、新たな事業への予算の確保と予算編成(配分)方法の見直しを行う。	年間を通じて実施していく。
	②教育環境の充実・維持	教育環境の充実を図り、生徒が安心・安全に学校生活を送れ、学びやすいと実感する整備を心がけていく。令和7年度においても、I C T教育設備の更新、生徒の安心・安全、学習環境の向上に繋がる総合体育館レスリング場空調設備設置等を行っていく。	年間を通じて実施していく。
	③諸規程の見直し	諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあった形で、必要に応じて改正を行い、新たな規程が必要な場合は制定する。改正・制定にあたっては、諸規程文中に、他の規程と関連しているものがないか確認を合わせて行う。	年間を通じて実施していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
庶務	継続性を持った取り組みと行事計画の見直し	コロナ禍をきっかけに多くの行事が新しい実施形態を取るようになった。しかし、依然とし精査が必要な行事は多く、引き続き適切な学校行事となるよう検討を進めていきたい。再来年度の行事予定にも反映させたり、中等教育と連携を密にし、無理のない行事計画を立案したい。	年間計画通りに実施して行く。
	防災計画の見直し	避難訓練を形骸化させずに、緊張感を伴って実施できるような工夫を行う。また、教職員の入れ替わりもあったことで、教職員に対する防災教育を実施する。具体的には、避難訓練の指導において必要な知識の共有と、日頃から生徒に伝達すべき防災意識の持たせ方についてである。I C Tを利用した、よりスリムな情報伝達システムの構築も考えていきたい。	年度当初より速やかに取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	《進学クラス》 1年生：「予習→授業→復習」の学習サイクルを徹底させ、弱点の早期発見と克服に努めさせる。模試や定期考査の結果を分析し、個々の学習状況の把握に努める。 2年生：授業の重要性を説き、高校生としての学習スタイル「予習→授業→復習」が確立できるよう、スタディサポートや家庭学習時間調査などから、生徒一人ひとりの学習状況を把握し指導する。各種テスト後は、必ず振り返りをさせる。その上で、朝テストやスタディサブリを用いた課題を継続的に実施し、基礎学力の定着を図る。 3年生：朝の時間を有効活用し、基礎学力向上に努める。定期考査はもちろんのこと模擬試験や実力テストなどでは、準備→実施→自己採点・点検→復習のサイクルを確立させる。また、定期考査や模擬試験後にはきちんと振り返りをさせ、現状とその原因を明らかにした上で復習させ、弱点の克服と学習内容理解の深化に努める。学年と教科担当者が情報共有化を図り、生徒一人ひとりに責任をもって授業に臨む。 《スポーツクラス》 文武不岐を追求し、学習習慣の確立、基礎学力の向上とともに授業第一主義を図りたい。また、自主学習の習慣を身に付けさせながら自分の進路を自分で決められるよう主体性の育成を目指す。 毎朝の朝会でこれまで以上に担任との連絡を取り合い、生徒全員の状態を把握できるよう努める。	年間行事予定に基づいて実施する。
	②進路指導	《進学クラス》 1年生：進路適性検査や進路ノートへの取り組み、卒業生講演会や各種講演会への参加を通じて、自己分析・自己理解をさせることで興味関心のある学問系統を認識させ、将来の職業を踏まえ適正文理選択ができるように指導する。 2年生：進路適性検査などを通して、自己分析・自己理解ができるようにする。オープンキャンパスや各種講演会への積極的な参加を促し、大学への理解や興味関心を引き出し、適切な職業観を養い、明確な進路目標を持てるように指導する。 3年生：卒業生講演会や日本大学出張講義や体験授業など、各種講演会には目的意識を持って積極的に参加させ、日本大学を中心とした進路指導を行う。一人ひとりの適性に合った進路を見出すために、志望理由書作成や二者面談の結果を学年で共有し、進路指導を行う。他大学への進学者についても学年・教科と連携し、進路決定まで学年が一丸となって指導する。 《スポーツクラス》 生徒の個に応じた展開を心掛け、意識の高揚と準部を促しながら日大基礎学力選抜、付属特別選抜、部活動推薦などの受験への対応を図り、進路実現に努める。また、保護者や部顧問との連絡を密にとりながら進めていきたい。	年間行事予定に基づいて実施する。
	③生徒指導	《進学クラス》 1年生：土浦日大高校の生徒としてのルールやマナーを理解させ、落ち着いた学校生活を送れるようにする。また、「挨拶の励行」を常に意識させ、折り目正しい生活態度を養う。 2年生：自分勝手な解釈、理解、判断をせず、コミュニケーション能力を養い、相手を思いやる振る舞いができるよう指導する。学校やクラスの一員として、責任と自覚を持った行動ができるように指導する。 3学年：周囲の状況を把握し、集団内での自分の役割を正しく理解した上で判断や行動ができるように導く。高校生および社会人としての振る舞いができるよう指導する。 《スポーツクラス》 爽やかで礼儀正しい、けじめあるアスリートを目指す。部員である前に生徒である、という意識を浸透させる。生活の乱れはプレーの乱れと心得て、挨拶、礼儀、言動など、他の生徒の模範となる運動部員であることを目指していく。 毎朝の朝会でこれまで以上に担任との連絡を取り合い、部顧問と連携しながら、生徒全員の状態を把握できるよう努める。	年間行事予定に基づいて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (含スポーツクラス)	④特別活動指導	《進学クラス》 1 学年：学級活動をしっかりと責任を持って行うとともに、部活動や生徒会活動にも積極的に参加できるようにする。様々な場面で、他者理解に努めさせ、コミュニケーションを円滑に取れる生徒の育成をする。 2 年生：学校行事や部活動・委員会活動において、リーダーシップを発揮し、中心的な役割を担えるように指導・助言を行う。キャリアプログラムである企業インターンを通して、他者理解をはじめ、思考力・判断力・表現力の伸長に努める。 3 年生：土浦日本大学高等学校の最高学年として、生徒一人ひとりに誇りと自覚を持たせ、後輩の模範となるような生活を送らせる。また、部活動と学校行事等では、主体的な行動ができ、様々な役割を担える生徒の育成に努める。 《スポーツクラス》 学校行事にも積極的に参加し、スポーツクラスから学校を盛り上げていくことを目標とし、他生徒からの信頼を受ける生徒となるよう指導していく。	年間行事予定に基づいて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
特別進学コース	①学習指導	育てたい生徒像に「高い英語力を身に付けた生徒」「決定的な得意科目・得意分野を持つ生徒」「大学の研究内容を理解し、その領域に合わせた研究志望を作り、語れる生徒」の3点を掲げ、それを実現するための指導を行う。特に、授業においては、口頭試問・グループ学習を随時取り入れ、知識重視の一方通行的な授業にならないように教科担当者と連携をとる。また、思考のプロセスを表現できる記述力を育てるために、定期テストではそれらを問う出題を必ず行い、厳密に採点する。 1 学年：インタレストラーニングを中心に探究的な学びを実施する。また、早期に英語を集中的に取り組み機会を設定し、英語に対する意識付けを行い英語力の強化につなげる。 2 学年：専門科目のスタートダッシュを図る。「英検2級（SHクラス準1級）全員合格」を掲げ、英語力の強化に努める。SHクラス上位層の増加、特進クラス生徒の進路に応じた得意科目の伸長を図る。 3 学年：全科目8月までに高校範囲を終了し、9月以降に共通テスト+志望校に応じた得意科目の伸長をはかる。学校推薦型入試については、4月に担当教員を決め、1学期から指導を開始する。	1 年生 特別進学コース生としての意識改革、学習スタイル構築、英語力の強化。 2 年生 文理・志望別における重点項目の徹底学習、得意科目の伸張。 3 年生 受験計画に基づいた学習、推薦対策、共通テスト対策。
	②進路指導	進路における情報収集と正しい理解に努め、発信されている情報を精査し、それに対応する指導を実践していく。1、2 学年は大学訪問や各種講座など積極的に見学・体験させることで、大学・学問研究を展開する。また、オンラインを活用した卒業生講演会など、効率的に実施できる行事の工夫に努める。3 年次では志望理由書の作成を通して、志望大学学部学科への進学意欲を高める。また、学校推薦型入試を活用し、対象生徒に対して一般入試対策と平行して早期の推薦入試対策に取り組む。加えて、私大文系クラスの設置とそのカリキュラムの開始に伴い、私大合格者の数を充実させていく。	1 年生 学問研究、文理選択。 2 年生 大学研究、推薦入試研究。 3 年生 志望理由書の作成、推薦指導。
	③生徒指導	特別進学コースの生徒としての誇りを持たせて、大きな声でしっかりと挨拶ができ、社会の一員としての自覚ある言動ができるように指導していく。現在、規範から大きく逸脱する生徒はいないが、生活態度に対しては、生徒に対して遠慮や妥協は絶対にしないようにする。担任による継続的な講話・指導を通して、いじめやSNSに関する注意を繰り返す。また、いじめ防止の観点からも他者受容のグループワークを計画・実施する。保護者や相談室とも連携し、生徒を心理面からサポートする体制を整える。	SNSについては、入学直後に指導の機会を設ける。 いじめにつながりそうな案件は、最優先で対処する。 学年集会を定期的に開催し、指導の機会とする。
	④特別活動指導	体育祭や文化祭、蓼科の合宿などの学校行事へ積極的に取り組ませて、集団への帰属意識を確立させ、協調性や他者に対する思いやりの心を育む機会とする。校外学習の機会を増やすことで協調性の育成を図る。また、インタレストラーニングの1・2 学年合同実施を活用して、学年を超えた協働的な活動でできるようにする。また、ウォーカソン（歩く会）やビブリオバトルなど、特別進学コース独自の取り組みを通して、主体性の育成につなげていく。	1 年生の段階で、高校生活のリズム・ペース・習慣を整え、様々な事に前向きに取り組む姿勢を養っていく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
グローバル・スタディ コース	①学習指導	グローバル・スタディコース理系カリキュラム始動に伴い、新しい探究活動内容を確立する。 ・文系・理系それぞれ個人探究課題を準備し、グループごとに探究活動を進める。 ・週1時間は、文系・理系それぞれ、“リサーチの意義と方法”の授業を通年で行う。 ・定期的に、グループごとに探究活動の進捗状況を発表する。	入学直後から意識の改革と、学習姿勢の改革に取り組む。
	②進路指導	生徒一人ひとりの興味関心を掘り下げ、個性を活かした進路指導を行う。 理系入試対策を進めるとともに、総合型・学校推薦型入試対策の見直しを進める。	総合探究・LHRに加え、各教科の授業にも協力を依頼し、年間計画を立てて進める。
	③生徒指導	国際社会のリーダーとしての資質を身につける。 1年はアイス研修、オーストラリア短期留学、2年はカナダ中期留学を通じて、マイノリティ理解を深める。それを通じて、望ましいリーダー像を常に模索しながら高校生活を送る。	総合探究・LHRに加え、コース集会も利用し、年間計画を立てて進める。
	④特別活動指導	学校行事及び部活動への積極的な参加 HRなどを通じて、部活動及び生徒会活動への積極的な参加を促す。	各行事に合わせ、事前・事後の指導を充実させる。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
情報処理	教職員コンピュータの更新	価格性能比を重視し過不足なく校務に対応できる機器を選定する。ソフトウェアは現行機器と同じ設定でインストールし、教職員が滞滞なく作業できるようにする。機器の配布に際しOSによる操作性の違いを周知し混乱なく移行できるようにする。	4月～8月 Windows11の配布テスト・機器選定 9月 購入・機器設定 機器設定 10～12月 機器の設定、配布
	購入アプリケーションの活用研究	virtual Desktop の利用により、タブレット端末にてWindowsデスクトップを操作することを研究する。 使用方法と制限を理解し、マニュアル化するとともに、活用方法を研究し、有効な使い方を提案する。	～8月 まず利用すること以降随時